

平成28年2月13日

報道機関各位

第21回中原中也賞の受賞作の決定

山口市長 渡辺 純忠

第21回中原中也賞を決定する中原中也賞選考会を、本日、午後1時30分から山口市湯田温泉の旅館『西村屋』にて開催し、別紙のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

【中原中也賞】

日本の近代詩史に偉大な貢献をなした山口市出身の詩人中原中也の業績を永く顕彰することを目的とします。そのため、新鮮な感覚を備えた優れた現代詩の詩集に対しこの賞を贈り、詩を通じて豊かな芸術文化意識の高揚をはかります。

○主 催 山口市

○後 援 青土社、株式会社KADOKAWA

○対 象 平成26年12月1日から平成27年11月30日までに刊行された現代詩の詩集（奥付入りの印刷された詩集）

○総 数 公募と推薦あわせて 174点

○選考委員 荒川洋治（現代詩作家）、井坂洋子（詩人）、佐々木幹郎（詩人）、高橋源一郎（作家、明治学院大学教授）、蜂飼耳（詩人）

○正 賞 中原中也ブロンズ像

○副 賞 100万円

○贈 呈 式 平成28年4月29日（金・祝）
ホテル松政（山口市湯田温泉）

○そ の 他 文芸誌『ユリイカ』（青土社）4月号に、受賞作の一部と選考会の内容が掲載されます。

【参考】

- ・ 山口市湯田温泉は、中原中也の生誕地です。
- ・ 本日の選考会場となった『西村屋』 葵の間は、昭和8年12月3日に中原中也（当時26歳）が、結婚式をあげたゆかりの場所で、同旅館には結婚披露宴の献立表が残っており、盃なども展示してあります。

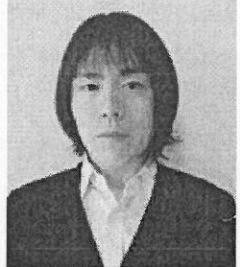
【事務局】 山口市文化政策課内「中原中也賞事務局」

山口市亀山町2番1号 TEL 083-934-2717 FAX 083-934-2670

※ 報道資料①～⑥及び受賞者・受賞詩集画像データにつきましては、2月15日（月）午前11時頃に山口市ホームページへ掲載する予定です。

※ 本日は選考会場に待機しておりますのでお問い合わせがありましたら、臨時携帯電話090-4575-1090に御連絡ください。（本日19時30分まで）

第 2 1 回 中 原 中 也 賞 の 発 表

受賞詩集	ようい 用意された食卓			 ※画像データを御希望の方は、中原中也賞事務局まで御連絡ください。 (090-4575-1090 19:30 まで)	
著者名	カニエ・ナハ				
出版社	私家版	刊行年月日 2015年9月30日			
著者の住所 東京都江東区在住					
年齢	35歳	生年月日	昭和55（1980）年9月2日		
性別	男	職業	ブックデザイナー	最終学歴	早稲田大学中退
《コメント》 不穏な時代に、危機を危機と感じられるうちに、楔を打っておきたい、一つにはそんな思いで、昨夏、5月から8月にかけて集中して制作した詩集です。このような詩集が評価していただいたことが単純に喜ばしいことかどうかわかりませんが、緊張感をもって、今後も真剣に詩と、世界と、向きあっていきたいです。どんなにあえかでも、詩が誰かにとっての希望のようなものでありますように。この度はまことにありがとうございました。					
《選考経過》 公募、推薦の詩集174点について本年1月に開催された推薦会の検討の結果、カニエ・ナハ『用意された食卓』、佐峰存『対岸へ』、宿久理花子『からだにやさしい』、平田詩織『歌う人』、宮岡絵美『境界の向こう』、望月遊馬『水辺に透きとおっていく』、森本孝徳『零余子回報』の7冊が選ばれ、本日の選考会の対象とされた。 今回はきわだって他を圧倒する作品が見当たらなかったこともあって、選考は困難をきわめたが、討論のなかで、カニエ・ナハ、宿久理花子、森本孝徳の3人の作品にしばられた。カニエ・ナハの『用意された食卓』は、抽象的な戦争をテーマとして、それを弱者の位置から追い詰めている。また、その言葉の運動には、異化と同化の効果のバランスがいい。作者はもちろん戦争を知る世代ではないが、戦争のイメージに客観性を持たせると同時に、死者そのものになりきろうとする言葉の足どりと、切迫感がある。宿久理花子の『からだにやさしい』は、大阪弁の女言葉で「私」を分析しようとする試みが面白く、巧みなユーモアもある。しかしその奔放な言葉遣いがたんに饒舌な語りで終わっている作品に、批評性を認めるかどうかで議論が分かれた。森本孝徳の『零余子回報』は、日本語の文法のなかに収まりきれない作者の言語感覚が、どの頁でも誠実に追いかけている。作者は日本語をモノとして眺め、それを壊し、意味がわかる、わからないを越えた緊張感を導き出しているが、あと半歩の力が足りない。次回作を期待したい。 カニエ・ナハの作品がこの賞の最終候補に残るのは、今回で3度目である。そして毎回、発展を遂げて、今回の詩集が最もよく作者の力量を示した。その持続力に敬意をはらいたい。					
選考委員：荒川洋治、井坂洋子、佐々木幹郎、高橋源一郎、蜂飼耳（50音順・敬称略）					

《山口市長コメント》

第21回中原中也賞が、カニエ・ナハさんの詩集『用意された食卓』に決定しましたことを、心から御祝い申し上げます。

この度受賞されましたカニエ・ナハさんが、今回の受賞を契機に尚一層、活躍の場を広げられ、さらなる飛躍をされますようを心から御期待申し上げます。今後とも多くの方々が、中原中也賞をひとつの目標として創作活動に励んでいただければ幸いです。

平成28年2月13日 山口市長 渡辺 純 忠

※受賞者の年齢は、2016.02.13 現在

第21回中原中也賞の応募・推薦の状況

選考対象となる詩集

	第21回(今回)	第20回(前回)
応募数 (A)	162点 (159 人)	189点(185人)
推薦数 (B)	12点	13点
合 計 (A+B)	174点	202点

応募 (A) の状況

都道府県別応募数

第1位	東京都(34)	東京都(49)
第2位	大阪府(19)	神奈川県(19)
第3位	神奈川県(16)	埼玉県(17)
応募都道府県数	36都道府県+外国1	40都道府県
山口県(含市内) 応募数	6点(※)	1点
山口市内応募数	—	—

※下関(2)岩国(1)宇部(1)防府(1)山陽小野田(1)

年齢別応募者数

9歳以下	0人 (0.00%)	0人 (0.0%)
10代	0人 (0.00%)	0人 (0.0%)
20代	18人 (11.3%)	17人 (9.2%)
30代	39人 (24.5%)	27人 (14.6%)
40代	20人 (12.6%)	22人 (11.9%)
50代	22人 (13.8%)	47人 (25.4%)
60代	40人 (25.2%)	52人 (28.1%)
70代	12人 (7.6%)	15人 (8.1%)
80歳以上	8人 (5.0%)	5人 (2.7%)
不詳	0人 (0.00%)	0人 (0.0%)
最年少	21歳(大阪府・女)	22歳(京都府・男)
最年長	86歳(埼玉県・男)	88歳(神奈川県・男)

性 別

男 性	75人 (47.2%)	114人 (61.6%)
女 性	84人 (52.8%)	71人 (38.4%)
不 明	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

第21回中原中也賞最終候補作品

ふりがな 詩集名	出版社	ふりがな 作者名	年齢	作者住所
ようい 用意された食卓	私家版	カニエ・ナハ	35	東京都
たいがん 対岸へと	思潮社	さ みね ぞん 佐峰 存	35	東京都
からだにやさしい	青磁社	しゆく り か こ 宿久 理花子	26	大阪府
うた ひと 歌う人	思潮社	ひらた し おり 平田 詩織	30	神奈川県
きょうかい む 境界の向こう	思潮社	みやおか え み 宮岡 絵美	35	大阪府
みずべ す 水辺に透きとおっていく	思潮社	もちづき ゆ ま 望月 遊馬	28	広島県
む か ご かいほう 零余子回報	思潮社	もりもと たかのり 森本 孝徳	34	東京都

※年齢は平成28年2月13日現在

中原中也賞選考委員の横顔 (五十音順)

荒川 洋治 <あらかわ ようじ> 現代詩作家

1949年福井県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科卒。詩集『水駅』（1975年）で第26回H氏賞を、1998年、『渡世』で第28回高見順賞を、2000年、『空中の茱萸(ぐみ)』で第51回読売文学賞を受賞。詩集『現代詩文庫・荒川洋治詩集』正・続、評論集『夜のある町で』『詩とことば』他。2005年、詩集『心理』で第13回萩原朔太郎賞を受賞。2006年、評論集『文芸時評という感想』で第5回小林秀雄賞を受賞。

井坂 洋子 <いさか ようこ> 詩人

1949年東京都生まれ。上智大学国文科卒業。1982年詩集『GIGI』で第33回H氏賞受賞、1995年詩集『地上がまんべんなく明るんで』で第25回高見順賞受賞、2003年『箱入豹』で第41回藤村記念歴程賞受賞、2011年『嵐の前』で第2回鮎川信夫賞受賞。主な詩集に『朝礼』『愛の発生』『バイオリン族』『井坂洋子詩集』『地に墜ちれば済む』、エッセイ及び評論に『夜の展覧会』『＜詩＞の誘惑』『永瀬清子』『はじめの穴 終わりの口』、物語に『月のさかな』などがある。

佐々木 幹郎 <ささき みきろう> 詩人

1947年奈良県に生まれ大阪で育つ。70年詩集『死者の鞭』を刊行後、現在までに詩集、評論・エッセイ集など多数。84年米国ミシガン州立オークランド大学に客員詩人として招聘。主な詩集に『蜂蜜採り』（第22回高見順賞）『砂から』『悲歌が生まれるまで』、評論集に『中原中也』（第10回サントリー学芸賞）『自転車乗りの夢』『中原中也 悲しみからはじまる』、エッセイ集に『やわらかく、壊れる』『瓦礫の下から唄が聴こえる』など。2003年、『アジア海道紀行』で第54回読売文学賞（随筆・紀行賞）を受賞。2012年、詩集『明日』で第20回萩原朔太郎賞を受賞。『新編中原中也全集』編集委員。

高橋 源一郎 <たかはし げんいちろう> 作家・明治学院大学教授

1951年広島県生まれ。1982年、小説『さようなら、ギャングたち』でデビュー。1988年、『優雅で感傷的な日本野球』で三島由紀夫賞、2002年、『日本文学盛衰史』で伊藤整文学賞を受賞。2012年、『さよならクリストファー・ロビン』で谷崎潤一郎賞を受賞。その他著書に『虹の彼方に』『ジョン・レノン対火星人』『ミヤザワケンジ・グレートストヒッツ』『官能小説家』『君が代は千代に八千代に』などがある。

蜂飼 耳 <はちかい みみ> 詩人

1974年神奈川県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。2000年、詩集『いまにもうるおっていく陣地』で第5回中原中也賞を受賞。2006年、詩集『食うものは食われる夜』で第56回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2006年、神奈川文化賞未来賞を受賞。他に詩集『隠す葉』『顔をあらう水』、小説『紅水晶』『転身』、文集『孔雀の羽の目がみてる』『空席日誌』など。童話『のろのろひつじとせかせかひつじ』など。2012年、絵本『うきわねこ』で第59回産経児童出版文化賞を受賞。

過去の受賞作品

受賞回	氏 名	詩 集	出版社	受賞当時 の年齢
第1回	とよはら きよあき 豊原 清明	夜の人工の木	霧工房	18
第2回	はせべ なみえ 長谷部 奈美江	もしくは、リンドバーグの畑	思潮社	37
第3回	そん みんほ 宋 敏鎬	ブルックリン	青土社	34
第4回	わごう りょういち 和合 亮一	AFTER	思潮社	30
第5回	はちかい みみ 蜂飼 耳	いまにもうるおっていく陣地	紫陽社	25
第6回	アーサー・ビナード	釣り上げては	思潮社	33
第7回	ひわ さとこ 日和 聡子	びるま	私家版	26
第8回	なかむら めぐみ 中村 恵美	火よ！	書肆山田	31
第9回	くたに きじ 久谷 雉	昼も夜も	ミッドナイトプレス	19
第10回	みすみ みづき 三角 みづ紀	オウバアキル	思潮社	23
第11回	みなした きりう 水無田 気流	音速平和sonic peace	思潮社	35
第12回	すとう ようへい 須藤 洋平	みちのく鉄砲店	私家版	29
第13回	さいはて たひ 最果 タヒ	グッド・モーニング	思潮社	21
第14回	かわかみ みえこ 川上 未映子	先端で、さすわ さされるわ そらええわ	青土社	32
第15回	ふづき ゆみ 文月 悠光	適切な世界の適切ならざる私	思潮社	18
第16回	へんみ よう 辺見 庸	生首	毎日新聞社	66
第17回	あけがた みせい 暁方 ミセイ	ウイルスちゃん	思潮社	23
第18回	ほそだ でんぞう 細田 傳造	谷間の百合	書肆山田	69
第19回	おおさき さやか 大崎 清夏	指差すことができない	アナグマ社	31
第20回	おかもと けい 岡本 啓	グラフィティ	思潮社	31